

2012年度中の信用金庫の預金・貸出金動向

信金中央金庫 地域・中小企業研究所主任研究員

刀禰 和之

信金中央金庫 地域・中小企業研究所主任研究員

品田 雄志

(ポイント)

- 全国信用金庫の2012年度末の預金残高は、前期比2兆2,878億円、1.8%増の124兆8,763億円に、貸出金残高は、1,012億円、0.1%減の63兆6,876億円になった^{(注)1}。
- 地区別の預金・貸出金の状況をみると、預金残高は10地区で前期末を上回ったものの、貸出金残高が前期末を上回ったのは東海、近畿、南九州の3地区にとどまっている。
- 預貸率は、前期比1.1ポイント低下の50.9%となり、4年連続で前期末を下回った。地区別では、北海道、東北、北陸、四国の4地区が40%台であった。
- 信用金庫別にみると、預金が増加した信用金庫は234金庫、貸出金が増加した信用金庫は124金庫であった。また、①預金・貸出金とも増加が115金庫、②預金は増加、貸出金は減少が119金庫、③預金は減少、貸出金は増加が9金庫、④預金・貸出金とも減少が27金庫であった。
- 信用金庫別の預貸率は、70%以上が4金庫ある一方で40金庫は40%を下回った。前期末と比較して、50%未満の信用金庫の割合がさらに高まっている。

1. 地区別の動向

(1) 全国信用金庫の状況

全国信用金庫の2012年度末の預金残高は、

前期比2兆2,878億円、1.8%増加し、124兆8,763億円となった(図表1)。東日本大震災の発生に伴う保険金流入の一巡などから、伸び率は前年度(2.3%増)より低下した。

(注)1. 本稿は、確報計数である25年6月3日付「全国信用金庫主要勘定(2013年3月末)」をもとに作成している。このため、速報ベースで取りまとめた25年5月13日付金融調査情報25-1「2012年度中の全国信用金庫主要勘定増減状況(速報)」とは計数が一部異なる。

図表1 地区別の預金・貸出金の状況

(単位：億円、%)

地区	預 金				貸 出 金				預 貸 率	
	11年度末	12年度末	前期比		11年度末	12年度末	前期比		11年度末	12年度末
			増減率	増減額			増減率	増減額		
北海道	65,059	66,143	1.6	1,083	30,445	30,346	△ 0.3	△ 98	46.6	45.7
東 北	45,660	47,624	4.3	1,964	22,249	22,042	△ 0.9	△ 207	48.7	46.2
東 京	223,533	226,917	1.5	3,383	119,147	118,533	△ 0.5	△ 613	53.2	52.2
関 東	231,594	234,385	1.2	2,790	118,145	117,810	△ 0.2	△ 335	51.0	50.2
北 陸	36,003	35,710	△ 0.8	△ 292	17,215	16,699	△ 2.9	△ 515	47.8	46.7
東 海	248,839	255,448	2.6	6,609	131,005	132,174	0.8	1,168	52.6	51.7
近 畿	247,833	252,958	2.0	5,124	131,895	131,931	0.0	35	53.2	52.1
中 国	55,002	55,866	1.5	863	30,055	29,911	△ 0.4	△ 144	54.6	53.5
四 国	24,656	25,484	3.3	828	10,487	10,221	△ 2.5	△ 265	42.5	40.1
九州北部	20,595	20,826	1.1	231	11,874	11,722	△ 1.2	△ 151	57.6	56.2
南九州	25,619	25,889	1.0	269	14,310	14,431	0.8	120	55.8	55.7
合 計	1,225,884	1,248,763	1.8	22,878	637,888	636,876	△ 0.1	△ 1,012	52.0	50.9

- (備考) 1. 沖縄県は合計に含む。
2. 預貸率の算出の際には、分母に譲渡性預金を含む。

一方、貸出金残高は、前期末から減少に転じ、1,012億円、0.1%減少の63兆6,876億円となった。個人向けおよび地方公共団体向け貸出が増加したものの、企業向けが不動産業や医療・福祉など一部業種を除いて減少したことから、前年度（0.0%増）から減少に転じた。

預金が堅調だった一方で貸出金が減少したこともあり、2012年度末の預貸率は、前期比1.1ポイント低下の50.9%となり、4年連続で前期末を下回っている。

(2) 地区別の状況

地区別の預金・貸出金の状況をみると、預金残高は北陸を除く10地区で前期末を上回った。前年度に続き東北が4.3%増と高い伸びを示している。これに四国（3.3%増）、東海（2.6%増）、近畿（2.0%増）が続く。

貸出金残高は、東海（0.8%増）、南九州（0.8%増）、近畿（0.0%増）の3地区で前期末

を上回った。貸出先では地公体向け融資の他に、東海では住宅ローン、南九州と近畿では不動産業向けの伸びが目立つ。

地区別の預貸率は、全11地区で低下し、北海道、東北、北陸、四国の4地区では40%台であった。

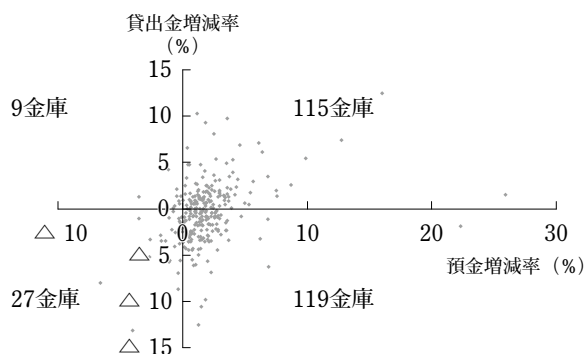
2. 信用金庫別の動向

(1) 預金・貸出金の状況

信用金庫別の預金・貸出金の状況をみると、預金が増加した信用金庫は、前年度から11金庫減少の234金庫、貸出金が増加した信用金庫は、2金庫減少の124金庫であった（図表2）。

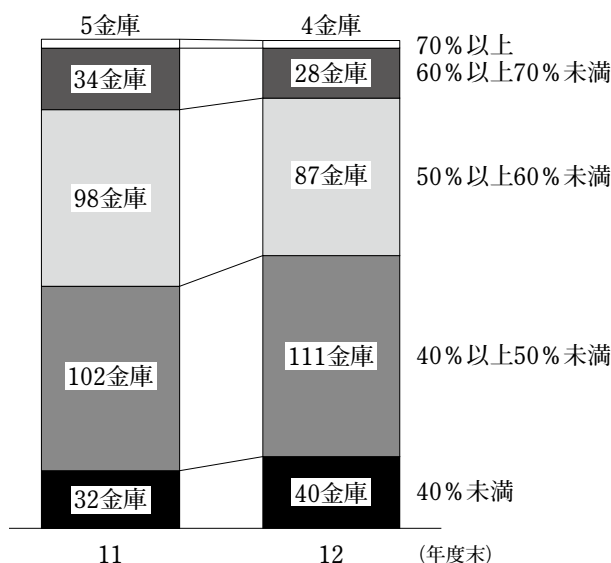
また、①預金・貸出金とも増加が115金庫（5金庫減）、②預金は増加、貸出金は減少が119金庫（6金庫減）、③預金は減少、貸出金は増加が9金庫（3金庫増）、④預金・貸出金とも減少が27金庫（7金庫増）であった。

図表2 預金・貸出金増減率の分布



(備考) 1. 2012年度末の預金および貸出金残高の前年度末比の増減率
2. 金庫間の合併調整済

図表3 預貸率の内訳



(2) 預貸率の状況

信用金庫別の預貸率は、70%以上が4金庫(270金庫の1.4%)、60%以上70%未満が28金庫(10.3%)、50%以上60%未満が87金庫(32.2%)、40%以上50%未満が111金庫(41.1%)、40%未満が40金庫(14.8%)であった(図表3)。

2011年度末と比較すると、50%未満の層が増加しており、特に40%未満の金庫の増加が8金庫と目立つ。

3. 他業態の動向

他業態^{(注)2}の動向をみると、①都市銀行^{(注)3}

は預金が前期比3.5%増の285兆6,615億円、貸出金は1.3%増の182兆2,721億円、②地方銀行は預金が3.3%増の228兆2,459億円、貸出金は3.2%増の166兆9,855億円、③第二地方銀行は預金が0.5%増の60兆247億円、貸出金は1.1%増の45兆1,585億円であった。

他業態と信用金庫との増減状況を比較すると、総じて信用金庫の貸出金が伸び悩んでいることがうかがえる。

預貸金の詳細については、おってレポートを作成し、情報提供する予定である。

(注)2. 日本銀行資料より作成

(注)3. 6行(みずほ、三菱東京UFJ、三井住友、りそな、みずほコーポレート、埼玉りそな)の合計